

第三六六回 三越名人会

昭和六十年五月十八日出 一時開演  
一、箏曲 菊城正明作曲  
手事に寄せる

幻想曲 一 藤田 歌子

二 奈良 靖子

二 溝口よしの

鈴木かよ子

浄瑠璃 清元延菊美

清元延月司

鳥さし 清元延さだ世

三味線 清元延さだ寿

清元延義栄

上調子 清元延菊胡

三、地唄舞 唄 北新地駒香

ぐち 北新地小道

立方 山村 楽鶯

四、琵琶 那須与一 高千穂旭楓

五、常磐津三世相錦繡文章

第四回道行蝶吹雪

洲崎堤の段

浄瑠璃常磐津 一巴太夫

三味線常磐津 小欣司

上調子常磐津 都喜蔵

清元

六、舞踊

浄瑠璃 清元延菊美

名寄の寿 清元延月司

立方 花柳寿魁 清元延さだ世

三味線 清元延さだ寿

清元延義栄

上調子 清元延菊胡

鳴物 望月太明蔵

社中

廣瀬綴水一門会追悼演奏会

詳報次号

暑中見舞掲載を

よろしく御願致します

予 告

六月 八日出 京都琵琶協会例会

平井会長宅 午後二時

廿九日出 邦楽名人会

郵政会館

七月十三日出 東西一泊弾交會

平安会館

廿三日(火) 八坂祭奉納演奏会

九月十四日(出) 京都琵琶協会グリーン、リポ

ン受賞祝賀演奏会

京都商工会議所

春の高校野球も終り、今やプロ野球阪神タ

イガースが五連勝しましたがその後連敗が続

いています。

スライダー、シュート、シンカー、ナック

ル等々野球用語の数々が「京絃」(付録)に

載っています御希望の方は申し込み下さい野

球が一段と面白くなりますよ。

昭和六十年六月一日発行

編集者 田中 敷

発行所 京 絃 社

〒658 神戸市東灘区御影中町一丁目一四一五

電話〇七八(八五一)一二六三番



琵琶 機関紙

京 絃

第三六八号 京 絃 社

特別出演琵琶 樋口主水

吟と尺八

とき 昭和六十年三月廿三日(土)

PM 一時十五分

ところ 福島市入江町一「福島市音楽堂」

主催 高橋十山、福島市

電話 五八一二四〇九

九三一四二一七

後援 福島民報社、福島民友新聞

司会 松本真知子

一、生田に宿す 吟 大山 荘岳

尺八 高橋 十山

二、山 行 吟 三瓶 国佑

尺八 佐々木虚童

三、寒 梅 吟 博田 光映

尺八 松本真知子

四、弘道館にて梅花を賞す

ナレーター 松本真知子

吟 鈴木 要山

尺八 高橋 十山他

五、短歌、しらしら 尺八 佐々木虚童

吟 藤田智恵子

六、書道吟、富士山 尺八 半沢 洗心

吟 遠藤 国心

七、江南の春 尺八 高野 春岳

吟 高野 春岳

尺八 高橋 十山他

六月のことば

青春よ永遠に

青春とは何か!!

心に若さを持つことである、夢と希望と自信と勇気を持って躍進を続けよう。

樋口主水

琵琶界は同好者一丸とならねば駄目でしょうね、派閥等は琵琶人間の話、一般人は、どれがキキヨイか、だけです。演奏は一方通行問返し不能、要は耳からだけで理解し得る歌い方にあると思う次第。

樋口主水

一月三州クラブの新年総会で「屋島の誉」二月十四日海軍兵学校の75・76・77・78期卒奉生の会合に東京竹会館で「城山」を演奏いたし一同と会食、懇談をしました。

普門義則

八月二十五日水戸市市民会館

光楓吟詠学院二十五周年大会

コロンビア後援

丘登至夫先生口演

- 八、春 吟 山田 吟星
- 尺八 佐々木虚童
- 九、箏曲、千鳥の曲 箏 山内美智子
- 尺八 高橋 十山
- 吟 菅原 義岳
- 吟 菅原 国光
- 一〇、千鳥の曲 尺八 佐々木虚童
- 吟 藤田智恵子
- ナレーター 松本真知子
- 一一、常盤孤を抱くの 合吟 佐藤 聖風
- 吟 古川 弘風
- 大貫 稔風
- 久保 蓉風
- 宗像 淳風
- 石幡 臣風
- 吉田 章山
- 天沼 富山
- 杉生 節山
- 戸田 晃山
- 本田 国請
- 尺八 佐々木虚童
- 一三、短歌、つばくらめ 吟 石幡 臣風
- 尺八 高橋 十山他
- 亭主 山田 仙洋
- 給付 本柳 道仙
- 客 荒明 進
- 梅津 行子
- 高橋 十山
- 一四、お点前
- 二一、吟舞、本能寺 舞 佐藤 泉春
- 吟 遠藤 国心
- 三瓶 国佑
- 尺八 佐々木虚童
- 吟 大山 莊岳
- 尺八 高橋 十山
- 鈴木かつ子
- 二二、曾我兄弟 吟 高橋 十山
- 二三、箏曲、乱 箏 鈴木かつ子
- 一五、寒 梅 吟 小野 幸風
- 尺八 高橋 十山他
- 一六、常盤孤を抱くの図に題す 吟 藤田智恵子
- ナレーター 松本真知子
- 一七、太田道灌みのを借りるの図に題す 吟 山田 吟星
- ナレーター 松本真知子
- 一八、春 望 吟 三好 鴻岳
- 尺八 高橋 十山
- 一九、山中の月 吟 博田 光映
- 尺八 佐々木虚童
- ナレーター 松本真知子
- 尺八 高橋 十山
- 菅原 陽翔
- 島 陽修
- 水野 陽芳
- 二四、琵琶、接待 尺八 佐々木虚童
- アンコール 異国の丘

### 錦心流琵琶の精髓

山に明け暮れてこの道一筋に生き、日本の心を今に伝える。

琵琶人 樋口 主水

明治卅七年一月九日、福島県いわき市に生れる。本名樋口春(なこし)八十歳。

十四の折、蓄音機で琵琶を聴き、その妙音に魅せられ、平手錦鞭先生の門に入る。

後、宇都宮に転居、石井将水先生に師事し、二十二歳で教師になる。二十三歳で樺太に渡り、二年間教授活動の後、感ずるところあり教師を止め、研究一筋に志す。

昭和十九年、福島県に戻り、三十年から現在の双葉郡川内村で研究に励む。

山中の一軒屋、電気、ガス、水道無く、冬期には郵便も止まるところで、陽出て耕し、陽入りて憩う。

井を穿チテ 呑ミ作シテ 食ラウ 生活。



### 主な演奏と放送

- 昭和五十二年 **TV**「琵琶法師阿武隈に吠ゆ」
- 北海道(札幌) 第十一師団演奏。
- 昭和五十三年 **TV**フジテレビ出演
- 北海道(札幌) 北部方面総監部演奏。
- 昭和五十四年 **TV**藤本義一氏と対談及び演奏。
- 北海道(札幌) 北部方面総監部演奏。
- 昭和五十五年秋田「羽後公論」に掲載さる。
- 昭和五十六年「静岡の考え」に掲載さる。
- 日本演劇協会主催邦楽大会演奏。
- 昭和五十八年 **TV**草柳大蔵氏と対談及び演奏。
- 昭和五十九年 **TV**NHK「邦楽百選」出演。
- 上野本牧亭出演。

**TV**生活取材及び今回の録音風景放映。  
**TV**NHK「ふるさとの心」  
「話題の指定席」  
海外向放送、等多数出演。

同師より八十歳を機に五十九年十一月二十一日コロンビアからレコードを出しましたから、とステレオ、レコードを届けられました。A面は「白虎隊」、「接待」B面は「山科の別れ」、「薄陽江」早速拝聴いたしました。流石に永年にわたる研究、研鑽の結果、その美声節調は素晴らしく、亦弾法の妙に感動いたしました次第です。どうか皆様もお聴き下さる様におすすめします。



田中 歎水  
会津若松、鶴ヶ城六百年祭(昭和五十九年九月二十二日築城)に秩父の宮妃殿下御来席の折に御前演奏をいたしましたが大変喜ばれ「声お若いですね。手よく動きますね。ランブ生活、不自由はありませんか」と御下問あり、百五十名程の皆さん羨しがっていました。一番よろこんだのは若松市長、琵琶祭を企画したので、当夜は殿下と同じ旅館でした。皇族となると警備も厳重です。旅館には警官十名が待機しました。

向って右から  
若松市長 猪俣 良記  
福島県知事 松平 勇雄  
秩父宮妃殿下  
樋口 主水  
カバン持  
其の他  
参加者

竹下翠風演奏会

とき 昭和六十年五月三日(祝) 午後五時半開演

ところ 安田生命ホール(新宿駅西口前) 西口五分

主催 竹下翠風 後援 みどり琵琶本部

曲目

朗詠 短歌二首 原田 文博

びわ 山吹の里 加藤百合子

大坪草二郎作詞・竹下翠風作曲

びわ 乃木將軍 浅香 翠稜

吾妻江風編曲

びわ 石童丸 吾妻 江雪

短歌朗詠 竹下 光子 作

平家壇の浦に沈みて八百年、因みて詠める七首

一の谷青葉の笛に落ちゆけど雅びの心持ち

てすぎにき

御座船に西の方さしし貴人の潮の流れに運命揺られつ

潮の流れに疎き船いくさのつひの海壇の浦にぞ源平争ふ

幼帝を抱きまつりて海に入りし波は彩にも

色乱したる 壇の浦の矢叫びの音関の声八百歳を経しわが耳朶にひびく

竹下 翠風

滅びたるいのち哀れとこの国の史に遺して 泪すいくたび

管絃に歌に奢れる人びとの滅亡哀れと語り 継ぎきし

びわ

和田 光瑤

飯田 旭祥

高橋 旭萬

笹倉 旭珠

若林 旭洋

福岡 旭紫

松原 旭吟

菊地 旭桜

大坪草二郎作詞・竹下翠風作曲

びわ 坂本竜馬 竹下 紫風

吾妻江風作

びわ 曾我の夜討 吾妻 江風

大坪草二郎作

びわ 茨 木 杉山 旗水

大坪草二郎作詞・竹下翠風作曲

びわ 大原御幸(全曲) 竹下 翠風

京絃3・4月号

読後感

苦小牧 林 尚水

初めに稿をすすめる為、頼山陽の述懐を、「十有三春秋」「逝く者は己に水の如し」「天地」始終なく、人生生死あり、安んぞ古人に類して千載青史に列するを得ん、山陽の十四歳の作とある」と筆者が常に愛吟する五言絶句である。古人の遺作を誤りなく解釈して又疑問点は解明するまで努力が望ましいと感ずる。

そうした意味から三月号貴誌の「四絃漫筆」中初代吉水錦翁師の錦水会当時の御意見より、帝国琵琶は、歌も絃も正確なるを要す。と歌の解釈を識らずして云々、続いてギナタ節について。よく聞けば一曲の中にはかゝる例はいくらかもある。聞く人が注意せねばならぬ、と。教師はそれでよいであろうか。解らないから習う。又質問するのである。ギナタに似た例はいくらもある。では視聴者に申訳ない、不親切ではなからうか。筆者は言う、ギナタに似た箇所は一ヶ所でも直すべきである、間違いであらうか。次に吉村岳城師の弾法図解の序文について

竹下翠風演奏会

とき 昭和六十年五月三日(祝) 午後五時半開演

ところ 安田生命ホール(新宿駅西口前) 西口五分

主催 竹下翠風 後援 みどり琵琶本部

曲目

朗詠 短歌二首 原田 文博

びわ 山吹の里 加藤百合子

大坪草二郎作詞・竹下翠風作曲

びわ 乃木將軍 浅香 翠稜

吾妻江風編曲

びわ 石童丸 吾妻 江雪

短歌朗詠 竹下 光子 作

平家壇の浦に沈みて八百年、因みて詠める七首

一の谷青葉の笛に落ちゆけど雅びの心持ち

てすぎにき

御座船に西の方さしし貴人の潮の流れに運命揺られつ

潮の流れに疎き船いくさのつひの海壇の浦にぞ源平争ふ

幼帝を抱きまつりて海に入りし波は彩にも

色乱したる 壇の浦の矢叫びの音関の声八百歳を経しわが耳朶にひびく

竹下 翠風

滅びたるいのち哀れとこの国の史に遺して 泪すいくたび

管絃に歌に奢れる人びとの滅亡哀れと語り 継ぎきし

びわ

和田 光瑤

飯田 旭祥

高橋 旭萬

笹倉 旭珠

若林 旭洋

福岡 旭紫

松原 旭吟

菊地 旭桜

大坪草二郎作詞・竹下翠風作曲

びわ 坂本竜馬 竹下 紫風

吾妻江風作

びわ 曾我の夜討 吾妻 江風

大坪草二郎作

びわ 茨 木 杉山 旗水

大坪草二郎作詞・竹下翠風作曲

びわ 大原御幸(全曲) 竹下 翠風

曰くこの本には音色の上げ下げには印は付けない。それは諸君がこの本により得た処の手で面白い音を編み出して欲しいのである。と、薩摩琵琶は他人の通りやる必要はない。然し少くとも薩摩琵琶の範囲を脱しない程度にやる事だ。と、筆者その後が悪い。標準がないから一寸困るが、これは一寸ではなく大きく困るではなからうか。更に道路の上を歩かないと云々。とそして諸君の常識に任せるとあり。曰く標識を立てずして常識には後継者は歩きようがない。いさゝか不親切ではなからうか。次に弾法が主か歌が主かは問題にならない。と、筆者は強く否と言ふ。何故なら、弾法はアシライだけでどんな大曲名曲でも歌は演える。翻って歌だけを歌った場合あれは琵琶じゃあないと大衆はおっしゃるか。更に如何に弾法に堪能な奏者が器用に弾いてもそれは一部の琵琶人が是非をとなえるだけであり、大衆は決して弾法を聴きに行きましようとは云わない、琵琶を聞きに言うであらう、それは歌を聴きに行くのである。その中に弾法が入るのである。そうした理由で筆者は歌を確実に而して弾法で色彩を添えよ、と、

藩制時代の薩摩琵琶が、演奏者の精神到一をはかるために、「無本眼目」で歌われ、明治になって東京に進出した後もこの姿勢は変らず、いまま鹿兒島の薩摩琵琶同好会の方々や、数少ない純正派の人人によって、この伝統が守られていることは御承知の通り、これはやはり薩摩琵琶が芸能以前のものであることを表わしているように思う。

か、さなきだに琵琶界の現状は如何に「筆者も昭和十六年以来四十五年のびわ狂です」こんな素晴らしい邦楽が他に存在するのでしょうか。独奏また楽し、愛好者に鑑賞していただき、掛合よし、連吟また興趣一入嬉しからずや。昭和十年以前のご研究とこの是非復活を期待します。人前に宣伝ではない。共に楽しみ人情を談じ合う、健康保持の為に詩吟と共に最高の芸能です。終りに吉村岳城師は筆者の識れる範囲の最も近い先覚である。その先覚のご意見としては如何に、と忌憚のない意見を琵琶を愛するが故に流派を超越して非才のペダを運んだ次第。

前にも述べたが初代吉水錦翁で、彼も当初「無本型」であつたであらうが、帝国琵琶を創始した頃には「有本開眼」に踏み切つたよう、前回御紹介した橋本錦龜の「薩摩琵琶の研究」のなかに「本を見て謡うの可否」というタイトルで「歌は無論暗記して謡うのが本体であるが、今日のように新作も出来、歌の数もふえては、悉くは暗記しきれないのである。よし暗記した所で歌を間違つたり、抜かしたりしたらば意味も通せず、却つて変なものになるのであるから、少し長い歌などは本を見ても差支えない」とやや消極的ではあるが、歌本使用を肯定している。

四絃漫筆(三七)

吉水錦翁師も年代的にも千載青史云々の中には途遠しと今回の勉強の中より識つた。昭和六十年四月十五日書き終る。

初めの「ムホン」は「無本」であり、あとの「ムホン」は「謀反」である。

普門義則さんに一言

自分自身のために演奏するもの云々 と何故

初めの「ムホン」は「無本」であり、あとの「ムホン」は「謀反」である。

なおこの帝国琵琶より派生した錦流や福岡で創始された筑前琵琶はもともと新しい芸能を目指したものであるから、最初から譜本を見る形をとつたのは当然のことである。これはさておき、私は昨年十一月東京で日

本琵琶楽協会の研究会を聴く機会をもった。この席上で吉川英史先生が、その日の演奏に対する講評をされたが、その中で、正派の人の演奏にふれられて、「盲目の義太夫語りの人でも譜本を置く、歌曲を暗記しており、瞑目して歌うことができても譜本は置くべきである」と純正薩摩琵琶も芸能として聴衆に披露されるときには、それ相応の形をとるべきであるとの御趣旨のアドバイスがあったので、私は私なりにこの問題について考えて見た。本来、私はアマである。純正薩摩琵琶の帰依者であると自認しているが、時には衣装を改めて一般聴衆の前で演奏することもあり、このようなときはそこばくの入場料も頂いているから、その時は私も芸能人になっているということであろう、それなればやはり譜本を置く方がベターであろうと。

大体こんなところに落ちついてしまった。それに、卒直に言って、晴れの舞台の上での「無本弹奏」は老令の私には少し荷が重い、歌詞を間違えぬかということが気になっていては、落ちついた弹奏もできないようで、この点からやややはり譜本を置く方がよいようである。

こんな経緯づ、私は純正薩摩琵琶の「無本」の伝統に謀反をおこすことにしたが、弹奏中

に歌本をめくるといふような器用なことは到底できそうにないし、また精神統一の妨げにもなるようであるから、一枚の紙に歌詞を書いたものを前に置く方式をとろうかと思っている。

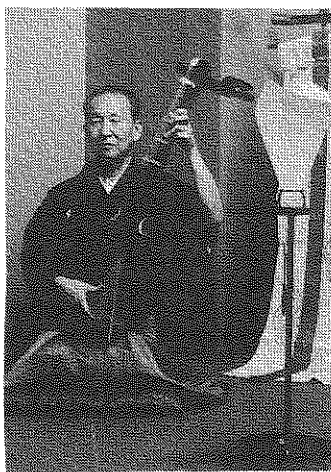
(訂正)

(1)本誌筆の「通し番号」は本誌本年一月号(三六三号)が(三五)で、三月号(三六五号)が(三六)でした。

(2)本誌本年一月号(三六三号)のタイトル「錦琵琶は薩摩琵琶でなかった」は「よかつた」の誤り、いまやっと気がつきました。



3月24日寂光院へお詣りし平井春嶺師が一曲を献奏されし時の写真である  
左より 平井春嶺師 庵主



京都琵琶協会会長 平井春嶺師  
師のプロフィールを紹介しよう  
一言でいえば豪放磊落にして慎重と申すべきか、外柔内剛なかなかの人物である。  
五十九年六月三日  
勝水会一泊親善旅行  
三溪園弾交会(中谷会長を囲んで)



村上文水・小沢勝良・鬼頭治水・近藤鈴水・水野玲恵・工山神水  
杉山禪水・山本葉水・田畑紅玲・田中玲翠・山中玲秋・白井理水  
長谷川修水・武田恒水・中谷麗水・阿部勝水・松浦玲水

静岡市立登呂博物館に於て  
筑前琵琶演奏

登呂博物館に於て目下「音の民俗学」として弥生時代の生活用具、資料等が特別展示中



で毎日賑わっている。

又、近代品として静岡市大和町の加藤旭晃女史の琵琶及参考資料が本人写真と共に展示されている。全女史は京都の梅原旭濤師の愛弟子である。去る四月十四日(日)午後二時

築前琵琶の第一人者の教え

え子であるスイス人が、市民芸術劇場の催しに特別出演して大きな話題に。琵琶の第一人者とは、大阪の橋会の宗範・山崎旭琴さん(モ)と西高槻圏・富田支部Ⅱで、その実力は国宝級のもの。スイス人とは、大阪大学に留学中のシルヴァン・ギニャールさん(モ)のII写真。

ギニャールさんは、山崎さんの琵琶の音色に魅せられ、二年間にわたって手ほどきを受け、その成果を豊中市教育委員会が主催した市民芸術劇場「琵琶の語り——源平

築前琵琶の第一人者



教え子のスイス人が熱演

より全館にて佐伯喜三郎館長始め多数の歴史愛好家の前で梅原旭濤師の「粟津の露」が演奏され大掲采を博した。

絵巻」に特別出演して披露したものを。

芸歴七十年の山崎さんは、これまで芸術選奨文部大臣賞と大阪文化祭賞を受賞。第二回広布の文化賞をも受賞している。

一昨年には欧州各国に一月間の演奏旅行に出るなどかくしゃくたるもの。ギニャールさんの特別出演も山崎さんの推せんによるもので、日本の伝統的な琵琶の至善が、今回の師弟の絆を通して、日本・スイス間の文化の懸け橋になっていくことだろう。